

キュービッド便り

二〇一八年十一月号

ご訃報のお知らせ

葬儀施行会社として、改めて故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌

有限会社 屋久島葬祭 42-2941

故夫 鞆初男儀十月五日八十歳の生涯を
とじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭斎場さくらにて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 鞆 松 美
- 長女 岩 下 久 代
- 二女 坂 田 八 千 代
- 二女 坂 田 八 千 代
- 三女 鞆 田 八 千 代
- 外親 族 一 同

故夫 藤村憲昌儀十月十一日九十二歳の生涯
をとじました。

なお、葬儀は一湊顕正寺にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 藤 村 ヤ ス
- 長男 藤 村 憲 良
- 長男 藤 村 正 子
- 長女 湯 田 厚 子
- 長女 湯 田 芳 明
- 孫 藤 村 一 憲
- 孫 藤 村 幸 憲
- 孫 江 口 奈 萌 子
- 孫 湯 田 昌 子
- 外親 族 一 同

故父 田實利正儀十月六日八十七歳の生涯を
とじました。

なお、葬儀は自宅にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 田 實 正 久
- 二男 田 實 昭 省
- 三男 田 實 清 成
- 長女 田 實 正 代
- 外親 族 一 同

故夫 泊光一儀十月十三日五十四歳の生涯を
とじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭斎場楽養送にて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 泊 律 子
- 長女 泊 美 菜 季
- 二女 泊 琴 美
- 母 泊 千 代 子
- 外親 族 一 同

故山田良友儀十月十八日七十三歳の生涯を
とじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭斎場楽養送にて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 古 里 千 代 子
- 山田家親族代表 松 元 優 子
- 外親 族 一 同

故藤森高弘儀十月二十五日四十六歳の生涯
をとじました。

なお、葬儀は自宅にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 楠 麻 都 香
- 長女 藤 森 稲 子
- 父 藤 森 健 次
- 母 藤 森 惠 子
- 外親 族 一 同

故夫 佐野朝次郎儀十月十八日八十一歳の
生涯をとじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭斎場さくらにて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 佐 野 サ エ
- 長男 佐 野 浩 二
- 長男 佐 野 美 代 子
- 長女 井 口 浩 司
- 孫 井 口 裕 二
- 孫 井 口 真 緒
- 孫 井 口 裕 二
- 孫 井 口 真 緒
- 外親 族 一 同

故母 木原ツボミ儀十月二十六日九十七歳の
生涯をとじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭 やすらぎの家
こせだの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 木 原 た づ 子
- 長男 木 原 清 美
- 長女 山 田 美 智 子
- 二女 山 田 美 智 子
- 外親 族 一 同

故夫 高橋淳一郎儀十月二十八日八十五歳の
生涯をとじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭斎場楽養送にて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 高 橋 紀 美 子
- 長男 高 橋 紀 美 子
- 長女 加 藤 直 美
- 長女 加 藤 敏 和
- 二女 澤 田 綾 子
- 孫 澤 田 卓 南
- 孫 澤 田 卓 南
- 外親 族 一 同

故母 牧マミ子儀十月二十八日七十七歳の
生涯をとじました。

なお、葬儀は楠川本蓮寺にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 牧 輝 剛
- 兄弟 牧 隼 己
- 妹 竹之内 マリ エ
- 外親 族 一 同

故夫 佐々木芳治儀十月十日九十二歳の生涯
をとじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭 やすらぎの家
ひらうち里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 佐 々 木 綾 子
- 長女 西 川 美 知 代
- 長女 西 川 富 雄
- 長男 佐 々 木 幹 雄
- 長男 佐 々 木 幹 雄
- 二男 佐 々 木 清 一
- 二男 佐 々 木 信 江
- 外親 族 一 同

故夫 渡邊義弘儀十月十八日七十二歳の生涯
をとじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭 やすらぎの家
ひらうち里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

- 喪主 渡 邊 久 子
- 長男 渡 邊 春 樹
- 長女 渡 邊 織 江
- 二女 八 田 友 絵
- 三女 川 原 繪 美
- 外親 族 一 同

十月一日以降葬儀施行の御葬家様分です。
誤字・脱字等ございましたらご容赦下さいませ。

急募



まずは
お電話下さい。
☎42-2941

ギフトショップ オズ

社員	【仕事内容】	ギフト包装・接客・品出し
	【時間】	午前10時～午後6時
	【休日】	週休2日交代制（祝日・祭日出れる方）
	【月給】	160,000円～（通勤・残業・職務などの各手当有）
パート	【仕事内容】	ギフト包装・接客・品出し
	【時間】	午前10時～午後6時
	【休日】	交代制（出勤日・出勤時間は相談に応じます）
	【時給】	900円～（交通費支給）

冬期アルバイト募集

◎時給 1,000円 出勤日・時間帯は要相談 普通免許（AT可）
◎高校生（アルバイト）時給 900円

屋久島葬祭

社員	【仕事内容】	葬祭アシスタント・生花販売（要普通免許・AT可）
	【時間】	午前8時30分～午後6時（残業有り）
	【月給】	165,000円～（通勤・家族・残業・職務・技術などの各手当有）
	【保険】	雇用保険・社会保険
パート	【仕事内容】	清掃・配達・接客など（要普通免許・AT可）
	【時間】	一日パート 午前8時30分～午後6時 午前パート 午前8時30分～午後2時 午後パート 午後1時～午後6時
	【時給】	850円～
	ポイント	前日に電話確認します。 あなたの都合のいい日に働けます。 【時給】 850円～

ひつじが丸

「何でもないような事が幸せだったと思う
何でもない夜の事、二度と戻れない夜」
高橋ジョージさんの歌「ロード」
最近、何と言っているのか、伝えにくいんだけど、身近な人が亡くなり、命に考える日が多かった。

たいへんお世話になった志戸子の顕正寺のご住職様。

いつも笑顔で話しかけてこられ、冗談をまぜながら、いつも心を和ませてくれた。
杖をつきながらおつとめに来られては、ご遺族様の心に寄り添い、心のこもったお言葉をかけてくださっていた。

また、その帰りには店に寄り、車のトランクにあるみかんを分けてもらったりもした。
そんなご住職が亡くなった際、出張中だったので、葬儀から参加となくなった。

本堂に安置された棺には、いつものご住職のお姿。最後のお別れでお花を入れる際、ご住職様のお顔を見た瞬間、気持ちが抑えられなくなり、大粒の涙が流れ、声を震わせて泣いてしまった。
葬儀社としては失格なのだが、初めてだった。それだけ、ご住職様にはたいへんお世話になり、ほんと、思い出深い方でした。合掌。

また、ある日には、同級生の親が亡くなった。あまりにも突然の事で、遺族、同級生に会っても片言の業務的な挨拶ぐらいしかできなかった。それ以上の言葉を話すと、感情があふれてしまうのを恐れたからだ。

通夜には、仕事の都合で参加できなかったのだが、同級生が来てくれたみたいで一安心した。
親を亡くし、つらく苦しい時に友達が来てくれるだけで、ほんと嬉しいものなのです。

葬儀終了後、親を亡くした同級生からみんなにお礼がしたいと連絡があったので、
「今後、同級生に不幸があった時、その同級生に電話でいいから声をかけてあげてください。その方が嬉しいものですよ」とお願いした。

また、ある葬儀では、今まで人生、夫婦力を合わせて歩んで来た人生。奥さんが病気になるっても布団を並べ、二人顔を見合わせ、「大好きだよ」ってほほをさすりながら語り合う二人。そんな二人

を陰ながらも支える家族。そして、そんな家族にも別れの時が訪れた。

また、ある葬儀では、突然訪れた愛する子供との別れ。

棺に寄り添う親の姿。
私も同じ子を持つ親として何と声をかけていいのだろうか、慰めの言葉も見つからない。

そんな悲しみの中、時間だけは淡々と流れていく。
そして、葬儀の中での、遺族代表のお父さんの言葉。
「同級生の皆さんに、お願いがあります。子供が元気で楽しく笑っていることが、親としての願いです。どうか、親より先にいかないでください」
ほんと、その通りだと思う。親からすると、何よりも大切なのは子供の幸せだと思う。

ほんと、命ってわからない。
亡くなる本人も、遺された遺族も、こんな一日になるなんて思いもしない。
できるものなら、間違いであってほしい。何もないから生きているあの日に戻してほしいと思う。

人との別れはほんとつらく苦しい事。
それが自分の家族ならなおさらの事。
いつか訪れるとは分かっているけど、遠い先の話だと思っている。

ほんと、その時が来た時に、自分自身どうなるだろう。
この仕事をしながら、日々、命のはかなさ、命の尊さを感じながらも、思っては消えていく毎日。
死には順番はない。

その迎える死が、明日、自分の番かもしれないのに。
やはり、他人事のように思い、まだまだ先の話だと思っているだめな人間の一人です。

もうすぐ年末、今年も家族そろって新しい年、平成最後の正月を迎えるはずだった。
でも、そんな家族にはいなくなった家族の存在を改めて感じ、つらく苦しい時間になることだろう。

あらためて、ご冥福をお祈りいたします。

